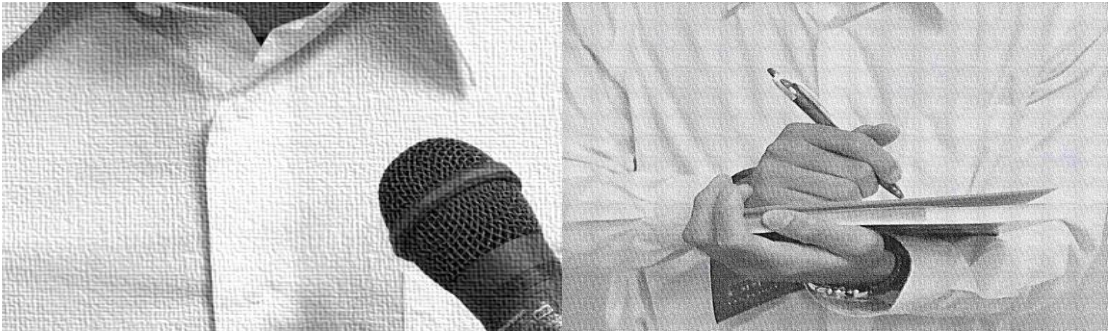


# 日本語教育を学んで No.2

## —橋本ゼミ修了生・卒業生へのインタビュー—



### インタビューについて

前号に引き続き、本稿では、横浜国立大学の橋本ゆかり教授のゼミ卒業生と修了生にインタビューした内容を紹介していく。今回は、2名のゼミ生にお話を伺った。1人目は、修士課程修了者の大竹文美さん、そして2人目は学部生の時に橋本ゼミに所属していた廣瀬航太さんである。お二人には、下記の5つの項目について話してもらった。

### インタビュー項目

1. 日本語教育を始めたきっかけ
2. 橋本ゼミでの思い出
3. 橋本ゼミで学んだことと今の仕事の関係（活きているところ）
4. 橋本ゼミに入ってよかったこと
5. 橋本ゼミをお考えの方々へ一言

### 1人目：大竹文美さんのプロフィール

私は修士課程の時に橋本ゼミに入り、橋本先生にご指導いただきました。今は、専門学校日本語教育科で指導する傍ら、インターナショナルスクールに通う児童も多い国語に特化した学習塾でも教えています。

#### 1. 日本語教育を始めたきっかけ

#### Q. 日本語教育を始めたきっかけを教えてください

子どもが生まれてしばらくは、主婦をしていました。その後、子育てを通して幼児教育に興味を持ち、幼児の思考力を伸ばす教育をしている教室で講師を始めました。そこでは、幼児が具体物を使って「楽しく学ぶ」教育が提供されていました。

その幼児向け教室と同じフロアに英語教室があり、そこで子どもたちが、

ネイティブの先生と一緒にとても楽しそうに英会話を勉強していました。それを見て、逆に、海外の子どもが日本語を習いたいと思った時に、日本人は楽しく学ばせるためにどうやってアプローチしていくのだろうと思ったのです。

これが日本語教育に興味を持ったきっかけでした。そして、420時間の日本語教師養成講座に通い始めました。

**Q. 日本語教師として出発したときのことについて教えてください**

養成講座を受講しているときに、修了後は、早くどこかで勉強したことを実践したいと思っていました。しかし、私が養成講座を受講している時期に、東日本大震災が起きました。多くの留学生が帰国し、閉校する日本語学校もありました。その影響で、学んだことを実践する機会を得ることが難しくなっていました。

そんな中、中国の大学で日本語教師を募集しているという話を聞き、試験を受けたら採用してもらえたので、思い切って中国に行きました。2か月に1回ぐらいの頻度で帰国しながら、1年間中国の大学で日本語を教えました。そこでは、勉強したことを実践したり、テストを作ったり、様々な貴重な経験を積むことができました。

**Q. 帰国後のことを教えてください**

日本語教師養成講座で知り合った仲

間たちとの連絡グループがあり、小学校で日本語教育補助のボランティアをしている人や区などがやっている日本語指導が必要な子どもたちへのボランティアに参加している人などから話を聞くことができました。その際、日本語指導が必要な学生に関して日本語教育ばかりが優先され、算数等の他の科目が置いていかれている状態があるのではないかと、また以前、幼児教育の教室で使用していたパターンブロックなら日本語が話せなくても使用できるため、これを使えば日本語が十分でない児童の数学的思考力も伸ばすことができるのではないかと個人的に考えていました。この考えを修士論文という形にして、世の中に発信したいと思い、大学院進学を考え始めました。

その後、科目等履修生という制度があることを知り、大学院の授業を受けてみたいと思い、横浜国立大学大学院で授業を受けました。

**Q. 横浜国立大学大学院に入ろうと思ったきっかけを教えてください**

科目等履修生として授業を受講した際に、日本語教育を勉強している大学院生の方からお話を伺う機会がありました。その方から、橋本先生のことを教えてもらい、受験前に先生の研究室に訪問させていただきました。その際に、先生が研究を始められた経緯をお聞きして、何歳からでも研究を始め

られるということが心に響き、橋本先生のご指導を仰ぎたいと思ったことが大学院受験の背中を押してくれました。

## 2. 橋本ゼミでの思い出

### Q. ゼミでの橋本先生のご指導について教えてください

とても愛のある厳しさがありました。一人一人のゼミ生の研究を尊重し、親身に向き合ってくださいました。真剣にゼミ生の研究に寄り添ってくださるが故に、厳しいご指導をされるときもありますが、いただいたご指摘に頑張っただけで応えていくと必ずいいものになり、それを繰り返していくことで素晴らしい研究へと進みました。そして、頑張っただけで修士論文を書こうという励みにもなりました。橋本先生のご指導があったからこそ修士論文が書けたと思っているので、今でも橋本ゼミでよかったとつくづく感謝しています。

### Q. その他の思い出を教えてください

橋本先生は、ゼミ生に役割を与えてくださいます。そのおかげで、修士課程在学中に様々な経験ができ、充実した大学院生活を送ることができました。その他の思い出としては、夏合宿のことがあります。これは、橋本ゼミだけではなく、日本語教育の修士課程全体で行なう中間発表の後に行く合宿です。合宿で宿泊する場所に行く途中の車内で、橋本先生と他の同期のゼミ生

と楽しい会話をしたことを今でも思い出として覚えています。

## 3. ゼミで学んだことと今の仕事の関係

修士論文を書く際に研究した内容が今の仕事に直結しています。学習塾では、修士論文での研究内容をもとにデザインしたパターンブロックを使用したオリジナルのプログラムを作り、それを自ら担当しています。修士論文でパターンブロックを用いた実践研究をして、まとめた結果をこのコースの信用性や意義を示す確固たる証拠として提示することができました。橋本先生にご指導いただいた修士論文での研究がなければ、今のように独自のコースを作り、そこで教えるということではできなかったと思います。

## 4. 橋本ゼミに入ってよかったこと

橋本先生は、ゼミ生を在学中だけの付き合いで終わることなく、修了後も交流や研究の機会をくださいます。在学生、修了生に関わらず、ゼミ生をランチチームとしてまとめてくださり、交流会や研究会やゲストレクチャーをする機会を設けてくださいます。そのおかげで、ゼミ生は修了後も研究を続けたり、活躍を報告したりする機会があります。

修了した今でも、新しいことに挑戦する機会をくださり、本当に感謝しております。

## 5. 橋本ゼミをお考えの方々へ一言

橋本先生は、研究されているテーマが広いので、研究に関する様々な引出しをお持ちです。それをもとにした的確なアドバイスで研究を導いてくださいます。もしご自身の研究テーマに不安がある方でも、研究したいことがあるのであれば、一度橋本先生にご相談されてみてはいかがでしょうか。

また、修士論文執筆中は大変なこともあります。そんな中でも橋本先生は食事会などの楽しい機会を設けてくださいます。そのため、橋本ゼミ生同士の仲がとても良く、居心地がいいゼミです。

橋本ゼミをお考えの方々への参考になれば幸いです。

## 2 人目：廣瀬航太さんのプロフィール

大学卒業後は横浜市で小学校教員になり、現在は4年目です。クラス担任をする傍ら、放送委員等の委員会活動指導や室内ボールクラブ等のクラブ活動指導も担当しております。

### 1. 日本語教育を始めたきっかけ

#### Q. 教育職を目指したきっかけを教えてください

前から医学、教育、法律の分野に興味があり、そのような分野の仕事につければと思っていました。また、もともと子どもと接することが好きでした。横浜国立大学教育学部を目指す前は、

医学部に合格するために浪人しており、将来は小児科医になろうかなと考えていました。浪人中は、予備校に通っていない時期があり、家の中でずっと勉強してることがありました。そうなる精神的によくないので、アルバイトをしていた時もありましたが、それにプラスして、アルバイトと勉強以外でも人とコミュニケーションがとれる機会があればと考えていました。そのような時に、病院に入院している子どもたちと接するボランティアを見つけて参加しました。そのボランティアの中で、子ども達に勉強を教える機会があり、それを通して子どもたちに勉強を教えるということでも、自分がやりたいことができるなと思いました。それがきっかけで、医学にこだわらなくても、子どもたちに勉強を教えるということでも自分のやりたいことができるのではないかと考え、医学から教育へと路線変更しました。

#### Q. 横浜国立大学に入学しようと思った理由を教えてください

まずは、学費の面を考えると、私立大学より国公立大学に行く方がいいと思っていました。

国公立大学はたくさんあるのですが、その中でも実家から通える範囲の大学を選びました。

また、教育学部だけではなく、他の学部で勉強している学生とも交流した

いと思ったので、総合大学に進学したいと考えていました。

これらの条件を満たすのが、横浜国立大学だったので受験しました。

**Q. 初等教育を学ぼうと思った理由を教えてください**

1つ目の理由は、小学校での6年間は、人格や性格の形成に影響を与える大切な時期だと考えており、またそのような時に、子どもたちと関わっていくことができたらいいなと思ったからです。もう一つの理由は、子どもたちは、大人が予想していないことを頻繁にします。そのため、子どもたちと接する仕事はルーティンインワークにならず、いつも新鮮な気持ちで仕事を続けられると考えたからです。

**Q. 橋本ゼミを選ぼうと思ったきっかけを教えてください**

ゼミを選ぶときに他の方から、橋本ゼミでは子どもに関する勉強や研究ができると聞いていました。将来、小学校の教員になることを考えると少しでも子どもに関する勉強や研究をしておいた方がいいと考え、橋本ゼミを選びました。

**2. 橋本ゼミでの思い出**

**Q. ゼミでの橋本先生のご指導について教えてください**

橋本先生は、意見を押し付けるのではなく、学生の意見を尊重してください

ます。ゼミでは、橋本先生がお話される前に、学生同士で意見交換をする機会をくださいます。そして、学生の話し合いが進まなくなったら、潤滑油になるようなアドバイスをしてください。

また、橋本先生は、学生が卒業した後のことも真剣に考えてくださいます。卒論のテーマを考えていた際、「小学校の先生になるんだったら、こんな研究テーマはどうか？」、「こういうところで研究のデータをとってみたら？」など、橋本先生は私が将来小学校教員になるうえで応用でき、実践につなげていくといった部分も考えてくださいました。

それだけではなく、橋本先生は、学生のやりたい研究を形にしてくださいます。私は、自分のやりたいテーマで研究を始めましたが、分析できるデータの量で悩んでいました。そんな時、橋本先生は私に新たな着眼点を提案してくださり、無事に卒論としてまとめることができました。

**Q. その他の思い出を教えてください**

一番思い出に残っているのは、橋本ゼミで行った合宿です。研究のことを話し合うだけではなく、バーベキューをしたり、花火をしたりしました。橋本先生や先輩方と普段あまり経験できなかったことができて本当に楽しかったですし、今でも思い出として残っています。

### 3. 橋本ゼミで学んだことと今の仕事

1つ目は、卒論の内容が今の仕事に直結していると思います。私は卒論で外国につながる子どもたちに関する研究をしました。この研究に取り組んだことのおかげで、私が担当するクラスに国際教室で勉強する必要がある児童がいた際に、落ち着いて問題なく対応することができました。

2つ目は、卒論の研究をした際に、研究に必要なデータを集めるために観察メモをとっていました。この経験を通して、「児童を細かく見る」ということを身につけることができました。このスキルは、小学校教員として働く際に肝要なことですし、とても役に立っています。

3つ目は、橋本先生から学んだ指導に対する姿勢です。先程も言いましたように、橋本先生は意見を押し付けるのではなく、学生の意見を尊重してください。私が小学校で指導する際も、まずは児童の話をしっかり聞き、その後指導に入るということを心掛けています。

### 4. 橋本ゼミに入ってよかったこと

橋本ゼミは、とてもあたたかい雰囲気です。そのおかげで他のゼミ生と積極的に意見交換をすることができました。それを通して、みんなと仲良くなることができました。少し抽象的な答えにはなるんですが、橋本ゼミに入ってよかったこととして思うことは、そ

のような充実した時間を過ごせたことですし、橋本ゼミを選んでよかったなと思います。

### 5. 橋本ゼミをお考えの方々へ一言

橋本先生は、とてもあたたかい先生です。自分が悩んでいることや考えていることを真剣に聞いてくださいます。橋本ゼミで頑張れば、とても充実した時間を過ごすことができます。そして何より、橋本ゼミに入れば、とても楽しい合宿に行くことができますよ！

(笑)

### おわりに

本稿では、橋本ゆかり教授のゼミ修生（大竹文美さん）と卒業生（廣瀬航太さん）にインタビューした内容を紹介した。本稿が橋本ゼミのゼミ生同士の情報交換や橋本ゼミへの参加をお考えの方々向けの情報提供として役に立てば幸いである。今回のインタビューを通して感じたことは、やっぱり、橋本ゼミの方と話すのは楽しい。橋本ゼミの方ともっと話したいということだった。コロナが終息し、橋本ゼミのゼミ生が集まって話ができる時が一日でも早く来ることを心より願っている。

執筆者：あいだたかのり（山梨大学 助教）